

2週間に一度のフラワーアレンジメントの効果

— 社会福祉法人的場会のデイサービスでの実践 —

広島県竹原市の社会福祉法人的場会のデイサービスで2018年5月から始まった的場会式花活(以降MHKと略す)は認知機能の維持などを目的として、2週間に一度フラワーアレンジメント活動を行っています。2020年12月11日現在で63回目の活動となりました。以下、この活動の状況について報告します。

1. 活動のきっかけ

2014年6月に「花きの振興に関する法律」が公布され、全国的に花きの振興に関する活動が始まりました。広島県では、脳の活性化等、心身の健康増進及び花きの需要拡大を目指した福祉施設等におけるフラワーアレンジメント体験の実施(「花活」：花を生活の中に取り入れて楽しく暮らす)を実施することとしました。これは、障がい者施設や高齢者施設、幼稚園、小学校、大学など公的施設で1回約30名を対象にだれにでもできるフラワーアレンジメントを楽しんでもらい、作品を自宅に持ち帰っていただく活動です。

この活動は2018年まで続き県内で約120ヶ所、約3000名の方々にフラワーアレンジメントを楽しんでいただきました。その概要を図-1に示します。



図-1 「花活」の概要

写真-1 「花活」の様子



2016年12月には竹原市の道の駅で一般の地域の方々を対象として開催しました



写真—2 道の駅・竹原での花活風景

この時期から「花活」を複数回繰り返し返した場合の効果を検証すべく“花活エビデンス実証委員会”が有志のメンバーで立ち上がりました。NPO 法人日本園芸福祉普及協会の吉長理事長のご指導をいただき、約8ヶ月でその効果を確認できました。その実証の場が竹原市の社会福祉法人的場会でした。



実証試験の様子

2. 実際の高齢者施設での実践

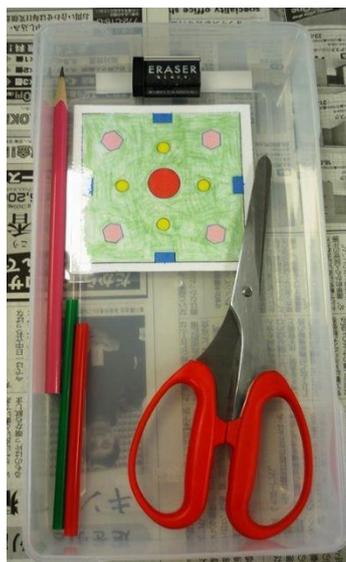
「花活」の効果を実証させていただいた場会では、デイサービスにこのフラワーアレンジメントを採用することを決断され、2018年5月からその活動が始まりました。

実際のデイサービスでは継続性が大変重要なため、長く継続できる工夫を「花活」での経験を活かして種々行いました。表—1には工夫した主要点を示します。

表—1 継続性を確保するための工夫

条件	具体策
(1) 低コストであること	<ul style="list-style-type: none"> ① 花器は百均で買える ② 吸水スポンジは百均のブロックを6等分 ③ 花材はワンコイン程度の価格とする
(2) 継続性を維持できること	<ul style="list-style-type: none"> ① 講師は施設の職員として外部講師は招かない ② 作品を自宅へもち帰り自宅でも花をたのしむことができる（花器は2週間後にデイサービスに持参する）
(3) 記録を取る（感想と定期的検査）	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎回花活前後にフェーススケールで受講者の気持ちを確かめる ② 半年に1回FAB(または MMSE)で認知機能を確認する

写真-3 継続性を確保するための工夫



花活道具箱；

- ・ハサミ、・ストロー、・挿し位置テンプレート
- ・鉛筆、消しゴム

職員さんの研修風景；

コスト低減のために講師は職員が務めることした。



花材；

- ・毎回花屋さんが一人分ずつ個包装して会場まで搬入してくれる。
- ・コストはワンコイン程度

吸水スポンジ；市販のブロック状吸水スポンジを6等分して使用。コストは的場会が負担
サイズ；約7.6cmx8cm 厚さ約5.5cm

専用花器；参加者が購入・所有し作品完成後自宅へ持ち帰り、2週間後に花器をデイサービスに持参する。

- ・百均で買える陶器製花器
(正四角錐：底辺=約7cmx
上辺=約12cm、 深さ=約7cm)



4. 認知機能の維持

認知症初期の高齢者では特別なケアをしなければ、認知機能は時間の経過とともにどんどん低下していくという文献もあります。

一方、表-1 や写真-3 に示す的場会式花活では、2020 年に日本認知症予防学会誌に掲載された文献【1】のように FAB 検査の得点は時間が経過しても低下することなく、ほぼ初期の得点が維持されています。文献【1】では統計的にも時間が経過しても有意差がないことが示されています。

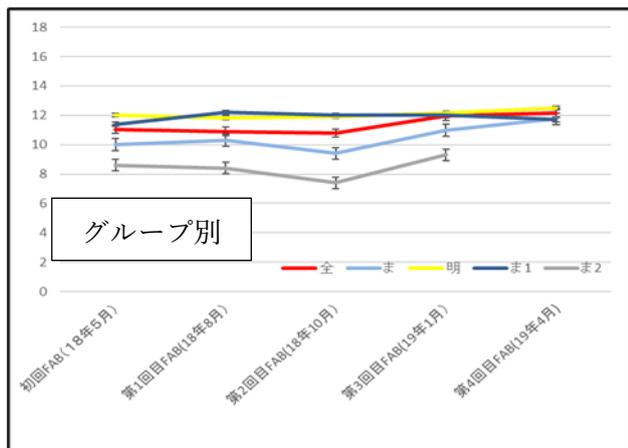


図-2 FAB 検査結果

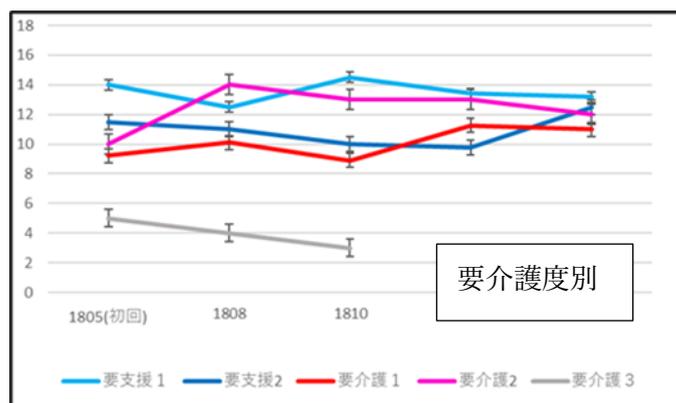
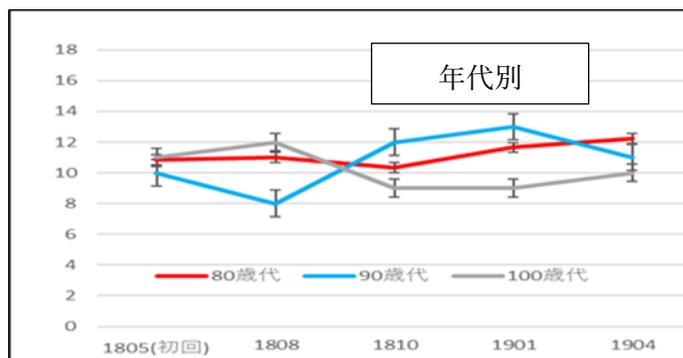


図-2(3) 要介護度別検査結果

なお、文献【1】はMHK開始後1年以内のデータに基づいて起稿されたものですが、その後も認知機能の維持については同様な結果が得られています。



5. 要介護度

5.1 要介護度の経年変化

認知機能の維持が一つの目標ですが、2018年5月から2年半経過しデータも蓄積してきたので、その他の効果を確認するために要介護度についても改めて整理してみました。

要介護度の経年変化については文献【2】【4】で具体的な研究結果が示されています。これらの文献の概要を下に示します。

以下に文献とMHKのデータを比較して検討しますが、MHKはデイサービス利用者が対象なので、特養などの重度の介護度のデータは多くは含まれていません。